

福沢諭吉

2017 年追試

問 8 福沢諭吉についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

27

- ① 欧米諸国が勢力を拡大する情勢において、国家の独立を守ることが急務であると考えた。そのためには、国民を政府に従属させることで、国全体の統一を図る必要があると論じた。
- ② 人間は生まれながらに平等であるとしながらも、現実の人間には貴^き賤^{せん}上下の差があることを認めた。このような差は生まれついでのものではなく、学問するか否かによって生じると考えた。
- ③ アジア全体を興隆させて、ともに西洋に対抗すべきだと一貫して主張した。そのためには、先進的な西洋文明を取り入れようとしない隣国を、文明的に進歩させる必要があると論じた。
- ④ 国家を発展させるためには、国民一人一人が学問を行う必要があると考えた。その学問とは、実際の生活に役立つ西洋の実学と、社会の秩序を教える儒学であるとした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 8	27	②	3

問7 次の文章は、福沢諭吉が、西洋由来の学問を支える懐疑の精神について述べた一節である。ここに説かれた内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 26

信の世界に偽ぎ詐ぎ多く、疑いの世界に真理多し。……文明の進歩は、天地の間にある働きの趣を詮索して真実を發明するにあり。西洋諸国の人民が今日の文明に達したるその源を尋ぬれば、疑いの一点より出いでざるものなし。……東西の人民、風俗を別にし情意を殊にし、数千百年の久しき、おのおのその国土に行われたる習慣は、とみに *これを移すべからず。……西洋の文明もとより慕うべし。これを慕いこれに倣ならわんとして日もまた足らず **といえども、軽々けいけいこれを信ずるは信ぜざるの優しに若しかず。……よく東西の事物を比較し、信ずべきを信じ、疑うべきを疑い、信疑取捨そのよろしきを得んとするはまた難きにあらずや。……学者勉つとめざるべからざるなり。

(『学問のすゝめ』より)

*とみに：急に にかに

**日もまた足らず：(そのための) 時間も足りない

- ① 西洋文明は、既存の知識を疑い、真実を探ろうとする精神によって、進歩してきた。日本人もこれに倣うべきだが、軽々しく旧来の習慣を捨てて西洋文明を摂取しようとする態度は、否定されなければならない。
- ② 物事を信じるところには偽りが多く、むしろそれを疑うところに真実が見いだされる。日本人は西洋的な懐疑の精神に倣うべきであり、長い歴史のなかで根づいてきた習慣も、これを速やかに改めなければならない。
- ③ 西洋文明は、既存の知識を疑い、真実を探ろうとする精神によって、進歩してきた。しかし、最終的には、信じるべきものを信じることが求められる以上、懐疑の精神それ自体も疑われなくてはならない。
- ④ 物事を信じるところには偽りが多く、むしろそれを疑うところに真実が見いだされる。ただし、東西の文化はそれぞれ固有なものであり、長い歴史のなかで根づいてきた自国の習慣に限っては、これを疑ってはならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問7	26	①	3

2013 年追試

問7 次の文章は、今日、「権利」と訳される right の訳語が定まらない時期に、福沢諭吉が原語を解説したものである。その説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 27

「ライト」とは元来 正^{せい}直^{ちよく}⁽¹⁾の義なり。漢人の訳にも正の字を用い、或^{ある}いは非の字に反して是非と対用せしもあり。正理⁽²⁾に従って人間の職分⁽³⁾を勤め邪曲なきの趣意なり。又此^{こゝ}の字義より転じて求むべき理という義に用いることあり。……元来求むべき理とは、催促するはず又は求めても当然のことという義なり。例えば至当の職分なくして求むべきの通義⁽⁴⁾なしという語あり。即^{すなわ}ち己が身になすべき事をばなさずして、他人へ向かい求め催促するはずはなしという義なり。

(『西洋事情 二編』より)

- (1) 正直：正しい。まっすぐである
- (2) 正理：正しい道理
- (3) 職分：各人が果たすべき務め。ここでは義務
- (4) 通義：普遍的な道理。ここでは権利

- ① ライトとは、正しい道理に従って義務を果たし、不正をしないという趣意である。そこから、正当な要求をする権限という意味にもなるが、それは身分の上の者に対する義務を果たさなければならないということでもある。
- ② ライトとは、正しい道理に従って義務を果たすという趣意である。そこから、正当な要求をする権限があるという意味にもなるが、それは義務を履行すれば要求は実現するはずということでもある。
- ③ ライトとは、正しい道理に従って義務を果たし、不正をしないという趣意である。そこから、正当な要求をする権限があるという意味にもなるが、それは当然の義務を果たさなければ要求はなし得ないということでもある。
- ④ ライトとは、正しい道理に従って義務を果たすという趣意である。そこから、正当な要求をする権限という意味にもなるが、それは他者のために奉仕しなければ要求が実現しないということでもある。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問7	27	③	3

2012 年本試

問 7 福沢諭吉が『学問のすゝめ』で、「信の世界に偽詐多し」と述べた理由を説明した次の文中の空欄 **a** ・ **b** に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **19**

a の かんよう 涵養 と **b** の導入による文明化こそが近代日本の歩むべき道であるとみた彼は、神仏などへの「信」によって形成される依存的な体質が、真理を見失わせ、文明の進歩を妨げると考えたから。

- ① a 独立自尊 b 民本主義 ② a 東洋道徳 b 実学思想
③ a 忠孝心 b 人権論 ④ a 独立心 b 数理学

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	19	④	3

2010 年本試

問 6 次の文章は、福沢諭吉が文明について記述したものである。その説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 19

昔鎖国の時にありては、わが人民はもとより西洋諸国なるものをも知らざりしことなれども、今に至りてはすでにその国あるを知り、またその文明の^{ありさま}有様を知り、その有様を我に比較して前後の別あるを知り、わが文明のもって彼に及ばざるを知り、文明の後るる者は先だつ者に制せらるるの理をも知るときは、その人民の心にまず感ずるところのものは、自国の独立^{いかん}如何の一事にあらざるを得ず。

(福沢諭吉『文明論之概略』)

- ① 西洋よりも後れている日本は、東洋の伝統的精神のうえに、西洋文明をもっぱら知識・技術として積極的に摂取すべきである。
- ② 西洋文明を知ることがかえって模倣に陥り、独立が危うくなる可能性があるるので、その受容には慎重であるべきだ。
- ③ 後れている文明が進んでいる文明に支配される理屈は誤りであることを、西洋文明の摂取においても主張しなければならない。
- ④ 後れている文明は進んでいる文明に支配されるため、人々はまず日本の独立に心を向け、西洋文明を摂取しなければならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問6	19	④	3

2008 年本試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

近代になると、武士階級の消滅に伴って、自尊は西洋由来の個人主義と結びついた形で現れてくる。「門閥制度は親の敵かたきでござる」と語り、古い身分制度を嫌った福沢諭吉は、日本人が西洋から学ぶべきものは の精神であるとした。福沢はそれと同時に自尊を強調したが、この自尊が「人を蔑視べつしし、人に無礼して自ら名誉なりと認め」るような、他者への配慮を欠いたものとなることを戒めた。福沢は、人間には天賦の尊厳が具そなわっているとし、そうした他者を認めつつ、自ら学問し自ら律することによって、真の自尊が可能になると考えたのである。

- ① 騎士道 ② 革命
③ 隣人愛 ④ 独立

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問1	14	④	2

2006 年追試

問 7 福沢諭吉の西洋文明観の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

19

- ① 当時の世界を野蛮，半開，文明の三つに分け，ヨーロッパ諸国とアメリカを文明国，日本や中国などアジア諸国を半開の国としたが，それは相対的な分類であって，ヨーロッパやアメリカの文明は日本が文明化するための当面の目標なのだ，と唱えた。
- ② 西洋文明は日常の生活に役立つ実学において優れているから，日本はそれを西洋から積極的に導入しなければならないが，道徳は西洋のまねをすべきでなく，儒学のために損なわれた日本の伝統を復活して，新しい国民道徳を作るべきだ，と主張した。
- ③ 当初，政府の表層的な西洋模倣策を批判して，平民の生活レベルにおける全面的な西洋的文明化を説いたが，後にその立場を捨て，西洋列強に対抗するために，日本の軍事的膨張を積極的に主張した。
- ④ 普遍的な天賦人権の立場からみて，西洋の文明にも良い点と悪い点があるとし，日本はその良い点のみを学んで取り入れ，植民地主義などの悪い点に関しては正々堂々と批判をしていくべきだ，と唱えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	19	①	3

2005 年本試

問 1 文章中の 28 に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ
選べ。 28

近代以降において、何らかの社会的役割の配分は、かつてのように血筋、家柄、肌の色などによって固定的に行われるのではなしに、個人の資質、能力、希望などによって行われるようになった。このことは、他の国々と同様に日本においても認めることができる。例えば血筋や家柄によって固定されていた士農工商という江戸時代の社会的役割の配分は、明治政府によって基本的に否定された。当時そうした変化を肯定的に捉えた福沢諭吉は、「28は親の敵で御座る」と述べ、血筋や家柄によってではなく、教育を通じて個人が獲得する知識や能力によって社会的役割が配分されるべきことを強く主張した。

- ① 貴賤尊卑 ② 伝統墨守 ③ 藩閥専制
④ 門閥制度 ⑤ 家督相続 ⑥ 東洋道徳

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	28	④	2

2004 年追試

問 5 福沢諭吉の構想する近代的人間として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- ① 儒教に欠ける進取の精神を西洋文明の思想で補いながら、自らの内部の伝統的精神を基盤に生きる人間。
- ② 外側からの開化に押し流されず、自己の内面からの近代化を求めて、自我の内的要求に基づいて生きる人間。
- ③ 文明の根本にある自立の精神を内に保ち、自らの判断力を養い実理を窮めて文明社会を実現する人間。
- ④ 文明と進歩の根底にあるキリスト教の精神を基盤に、自己内面の独立と平等社会の実現を目指して生きる人間。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	25	③	3

2003 年追試

問 4 福沢諭吉の主張として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- ① 中国や朝鮮への接し方は，隣国であるからといって特別に配慮する必要はない。まさに西洋人の両国への接し方に倣って取り計らうだけである。
- ② 文明は はしか 麻疹 のようなものだから，単にこれを防がないだけでなく，努めてその まんえん 蔓延 を助け早急に国民を文明化するのが ちしや 智者 の役目である。
- ③ 武威腕力を用いるのではなく，世界の正義の手本となるべく，アジアにおいても，まず我が国から同等主義を重んじなければならない。
- ④ 我が国には，隣国の開明を待って共にアジアを繁栄させる時間的余裕はない。むしろその隊列を脱して西洋の文明国と進退を共にすべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	25	③	3

2001年追試

問6 儒学的世界観を自らの知的基盤の一部にしてきた日本の知識人は、儒学を批判したり、それに近代西洋思想を接合しようとしたりすることによって、新たな思想を形成していった。このような思想的営みを展開した代表的思想家として、福沢諭吉や西村茂樹がいた。彼らの儒学に対する態度として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選べ。福沢については に、西村については に答えよ。

- ① 儒学は変化を好まず、古代に政治の模範を求め、世の中を停滞させる弊害を持つと批判した。しかし一方で、人心を野蛮から文明へと洗練発展させた歴史的功績については評価した。
- ② 海外に日本思想を説明する際、儒学などを背景に成立したと考えた武士道に着目した。そしてこの武士道精神は、キリスト教を受容する基盤ともなりうると主張した。
- ③ 日本の急激な西洋化による道德秩序の混乱を きん 危惧し、儒学と西洋哲学を折衷した国民道德を つく 創り出そうとした。そのため、道德普及団体を組織し、学校教育にも影響力を持つに至った。
- ④ 個人を超え個人を律する儒学的な「天」という考えを否定し、自主自由の権利を主張した。そして国家・政府がそれを阻害した場合には、人民に抵抗する権利があるとした。
- ⑤ 儒学は形式主義的かつ非人間的であると批判し、それを排することを主張した。そして儒学に影響されない思想を探るため、古代の文献研究を積極的に進めた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問6	23	①	3
第3問	問6	24	③	3